

朝・中・日 3 言語併用者の会話における 一方進行コード・スイッチング — 言語の特徴に注目して —

金 珍淑

1. 研究背景

近年の社会言語学の展開にともない、コード・スイッチング(以下 CS)は参加者の属性、場面、話題などの要因により、一定の統語上の規則をもって引き起こされ、コミュニケーション上さまざまな機能を果たすものとして評価されるようになった。

しかし、これまでの研究では、CS を引き起こす要因として、参加者の属性(言語能力や社会的なもの)、場面、話題などが挙げられているが、CS する言語と CS される言語の差異と言語自体の特徴を要因としてみた研究は管見の限り見当たらない。

言語の特徴を、CS を引き起こす要因として探ることを目的とするには、従来の二つの言語だけを扱う一方向言語併用者の一つの言語からもう一つの言語に CS する一方向より、3 言語を扱う方が説得力のあると考えられる。例えば、3 言語話者は一つの言語で話している途中、他の言語に切り替える際、二つの選択肢がある。その二つの言語の中でどちらか一つの言語にしか CS しない場合、その選ばれた言語の特徴が反映されるのではないかと考えられる。そのため、本稿では朝鮮語・中国語・日本語の 3 言語を不自由なく使える朝鮮族の留学生を対象とし、「言語の特徴」により引き起こされる CS の方向を比較する研究方法を取る。中国朝鮮族の多言語使用の背景を踏まえて、CS された言語に見られる、言語の特徴から CS に与える影響を明らかにすることができるためである。

2. 先行研究

本稿では、同一状況における三つの言語的背景を持つ人々の日常的な会話であることから、CS を、「二つ以上の言語を同じ発話もしくは会話内で並置したり(文間 CS)、基幹言語の中にもう一つの言語が埋め込まれたり(文中 CS)すること」と定義

(金 2005) し、分析する際には、文間 CS と文中 CS の区別はしない。

これまで、CS に影響する要因として言語の特徴をとりあげた研究は見当たらないが、陳(2001)は、CS の果たす機能的な面から言語の特徴を見出した。陳(2001)は、台湾語—中国語バイリンガルの CS の進行方向¹に注目し、2 種類の一方進行 CS²の共通の機能を見出し、言語伝達における CS の機能性と二言語の機能的な分業を解析した。その一方進行的な CS を引き起こす要因は、台湾語の感性的な部分と、中国語の情動的な事柄に用いられる特徴であると述べている。これは Gumperz(1982)で述べている、二言語を持つことが資源となることにとどまらず、個別の言語がもっている特徴についての知識が資源となり CS に影響していることが窺える。

また、金(2005)では、朝鮮語を優位とする朝鮮語留学生の自然会話をデータとし、朝鮮語をベースとする場合、CS を引き起こす要因を分析した。結果 CS を引き起こす要因に「言語的な要因」と「機能的な要因」を見られたとした。例え、日本語の「言語的な要因」による CS の場合、朝鮮語がベース言語であっても、中国語がベース言語であっても日本語に CS することが予測されるが、金(2005)ではベースとする言語を朝鮮語のみにしたため、他の言語で話す際はどの言語に CS するか実証することができなかった。

本稿では、ベース言語に拘らず、全会話における CS の方向を分析することで、金(2005)で見られた「言語的な要因」の中一方進行の CS を観察する。

3. 研究の目的と課題

本稿では、朝鮮語・中国語・日本語の 3 言語を自由に操る日本在住朝鮮族の自然会話をデータとし、会話内 CS で見られる一方進行 CS に焦点をあて、言

語の特徴による CS がコミュニケーションに与える影響を探ることを目的とする。

課題 1. 朝鮮語をベースとする場合、言語特徴による一方向進行 CS は見られるのか。

課題 2. 課題 1 で見られた一方向進行 CS は、朝・中・日 3 言語をベースとする場合、一方進行 CS であるのか。

4. 研究方法

本稿の協力者は、日本の文系大学、もしくは文系で学んでいる、あるいは学んだことのある中国の朝鮮族 7 名である。朝鮮族 3 世・4 世⁴である協力者の中国での教育背景、言語環境などは少し異なっているが、日本に来てからは生活、教育、社会的な面で類似したステップを踏んでおり、似た経験を持つ仲間同士である。

中国の朝鮮族 3 世・4 世の言語実態をみると、ほとんどが朝鮮語と中国語の二言語教育を受け、朝鮮語と中国語二言語併用者であるが、彼らを取り巻く家庭や学校（小学校～高校まで）及び社会環境で使われる言語の違いにより、優位とする言語が異なる場合がある。本稿では、朝鮮語を優位とする朝鮮族 5 人と中国語を優位とする朝鮮族 2 人を研究対象とする。

データの収集は、協力者の選定に先立って（金 2005）簡単な質問紙調査行ない、フォローアップ・インタビューと共に分析の際には参考程度に留めた。2005 年 4 月～8 月にかけて、一回 4、5 名、毎回約 2～4 時間の会話を 4 回（計 12 時間）録音し、文字化を行なった。

5. 分析の結果と考察

5.1 課題 1 朝鮮語をベースとする場合、言語特徴による一方向進行 CS は見られるのか

図 1 で示したように、朝鮮語を優位とする朝鮮族の朝鮮語をベースとする CS で、「意味領域の違い」、「受身表現」、「曖昧な表現」、「決まり文句」は朝鮮語から日本語への一方向進行の CS を引き起こしている。また、「敬語使用回避」、「論議の便宜さ」は朝鮮語から中国語への一方向進行を引き起こしている。しかし、ここまでは、朝鮮語をベースとする CS に過ぎないので、その逆の場合があるかは分からない。つまり一方進行であることを証するに充分だとはいえない。そのため、中国語を優位とす

る朝鮮族の会話も含め、朝・中・日 3 言語それぞれをベース言語にする場合の上記 6 項目による CS を分析して見る。

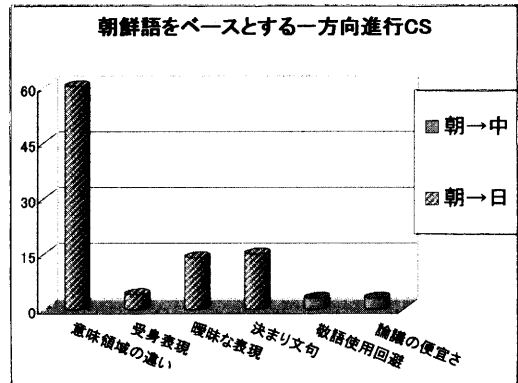


図 1

5.2 課題 2：課題 1 で見られた一方向進行 CS は、朝・中・日 3 言語をベースとする場合、一方進行 CS であるのか。

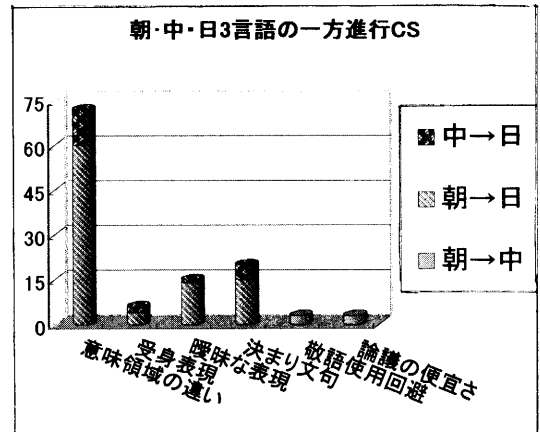


図 2

図 2 で示したように、「意味領域の違い」、「受身表現」、「曖昧な表現」、「決まり文句」は朝鮮語から日本語へ、中国語から日本語へと、日本語への一方向進行の CS しか見られなかった。また、「敬語使用回避」による CS は朝鮮語から中国語への一方向進行しか見られなかった。

つまり、朝・中・日 3 言語を併用する朝鮮族の発話で、「意味領域の違い」、「受身表現」、「曖昧な表現」、「決まり文句」による CS は日本語への一

方進行 CS とみなすことができる。また「敬語使用回避」と「論議の便宜さ」による CS は中国語への一方進行とみなすことが出来る。

このような CS する言語方向の偏りは、言語の特徴が CS を引き起こす要因であることを裏付けている。

5.3 考察

本節では、実例を挙げながら、各要因により引き起こされた CS と、その方向が示すものを詳しく記述し、考察していく。

(1) 受身表現

本稿では、「...言われる」「...聞かれる」など、少ない数ではあるが受身表現に切り替えることで、働きかけられる立場を浮き立たせる例が観察された。

会話例 2 (朝鮮語→日本語) (訳)

B: 愛知에 있는 친구한테 誘われて るんだけど, 내가 지금 취직 바쁘다 논문 바쁘다 그냥 핑계만 대고 있는데	B: 愛知にいる友達に 誘われて るんだけど, 私は今就職で忙しい, 論文で忙いって言い訳ばかり言っているところなの
---	---

本稿で、「受身表現」による CS は朝鮮語から日本語への方向のみ 4 箇所観察された。その理由として、朝鮮語には「受身表現」がないため、主題を自分以外の人に転嫁し、自分は働きかけられている立場であることを示したい場合は「受身表現」を持っているほかの言語に CS で対処しようとするのが考えられる。しかし、中国語には「被」という言葉を入れて受身的な文章に変えることはできるが口語ではめったに言わない堅苦しい言葉であるため、受身表現をよく使うという特徴を持っている日本語へ CS したと考えられる。

(2) 決まり文句

本稿では、よその家に訪ねたときに「お邪魔します」、食事を始まる前に「いただきます」、人を見送るときに「気をつけてね」、また「ありがとう」、「ごめんなさい」など日本での生活では日常的に使われている慣用的な挨拶言葉が、日本語のまま多用されていることが観察された。

会話例 5 (朝鮮語→日本語) (訳)

H: 언니야 <X と M を連れて家に入る> →A: お邪魔しまーす	H: お姉ちゃん<X と M を連れて家に入る> →A: お邪魔しまーす
---	--

スィリポーン (2003) は、「決まり文句」や挨拶言葉は日本での生活をしている中で、自分達の日常的な言葉、挨拶言葉となる習慣の表示である」と述べている。勿論、習慣的な使用もあるだろうが、それより、日本では、日常の場面で使う言葉がほぼ決まっっていて、この場合は何を言った方がいいのかなどを具体的に自分の状況に即して考える必要がない点に注目したい。例えば、日本語では、「いただきます」、「ご馳走様」など決まった言い方があり、必ず使うことになっているが、朝鮮語と中国語では、人によって言う場合も、言わない場合もある。言うとしても、一々言う必要はあるのかと心理的に負担を感じたり、決まったものがないのでその都度何を言ったらいいのか悩んだりすることがある。このような朝鮮語・中国語の非効率的とも言える面は、日本語の決まり文句に CS することで解消されるのではないだろうか。

(3) 敬語使用回避

朝鮮語と日本語には敬語表現があり、目上の人に対しては敬語を使うのが礼儀であるとされている。それに対し中国語は敬語表現がなく、目上の人にも目下の人にも話し方はほぼ同じである。このような 3 言語の差異を利用し、朝鮮語から中国語に CS することで敬語使用を回避する場合は本稿で観察された。

会話例 8 (朝鮮語→中国語) (訳)

E: 많이 먹어라 응 A: 잘 먹겠습니다 F: 맛있지 A: 응 F: さすが姉ちゃん →A: 你们差几岁呀? H: 우리? A: 나이차가 얼마? H: 네살	E: たくさん食べて A: いただきます F: 美味しいね A: ウン F: さすがお姉ちゃん →A: 二人は何歳差? H: 私達? A: 何歳差があるの? H: 4 歳
---	--

この会話は、[H]の自宅で[H]の姉である[E]が作った料理を食べながら、[A]が姉妹である[H]と[E]の年の差を聞く場面である。[H]は[A]より少し年上であるが友達なので、[A]は[H]に普通の会話では敬

語を使わない。[H]の姉である[K]は[X]と初対面で年上なので、[A]は[E]に敬語を使用している。しかし、[A]が二人に向かって年の差を聞く際、敬語を使うべきかどうか悩むことになる。その結果敬語のない中国語にCSして二人の年の差を聞いている。[A]の質問に[H]が「私達？」とターンをとった途端、[A]は砕けた朝鮮語に戻って[H]に話している。このような敬語使用を回避するため朝鮮語から中国語に切り替えることは普段の生活でも意識して使っていると、[A]に対するフォローアップ・インタビューで確認された。

6. 今後の課題

本稿では、同じ言語能力、同じ言語背景を持つ話者同士間のCSをみるため、朝鮮語・中国語・日本語3言語とも話せる日本在住朝鮮族同士の発話を研究対象とした。しかし、バイリンガル同士の発話だけでは、語用論的知識がどの程度転移され、言語の特徴がどのようにCSに現れたかを比較することはできなかった。そこで、今後は、バイリンガル同士の発話、モノリンガル同士の発話、バイリンガルとモノリンガルとの発話を比較することでCSの実態とその意義を明らかにすることを試みたいと考えている。

注

1. CSの進行方向：台湾語をベースとする中国語へのCSは台湾語から中国語への方向である。
2. 一方進行CS：2言語が相互的にCSすることなく、1つの言語からもう1つの言語へ一方的にCSすること。
3. 一方進行CS：1つの言語からもう1つの言語へ、あ

るいは二つの言語からもう一つの言語へと一方的にCSすること。

4. 朝鮮族3世・4世：中国に最初に移住してきた世代を1世とし、その子孫であり中国で生まれ育った者を3世・4世とする。年齢的には20～30代ぐらいである。

参考文献

- 東照二 (1997) 『社会言語学入門』 研究社
- イヤムボンサイ・スィリボン (2003) 「タイ人留学生のコード・スイッチングの実態—文法的・機能的観点から注目して—」 『お茶の水女子大学人間文化研究科修士論文』
- グラディミール・ジェガラツツ、マーサ・C.ペニンントン (2000) ヘレン・スペンサー＝オーティエ (編著) (2004) 『異文化理論の語用論』 研究社 84-112
- 金珍淑 (2005) 「朝・中・日3言語併用者のコード・スイッチング—日本在住朝鮮族の言語運用に注目して—」 『お茶の水女子大学人間文化研究科修士論文』
- ジョン・ガンパーズ (1982) 井上逸兵・出原健一・花崎美紀・荒木瑞夫・多々良直弘 (訳) (2004) 『認知と相互行為の社会言語学—ディスコース・ストラテジー』 松柏社、
- 陳麗君 (1999) 「台湾の二言語話者におけるコード・スイッチングの要因—場面と属性を中心に」 『現代社会文化研究』No.16 21-52
- 陳麗君 (2001) 「台湾人の会話における一方進行のコード・スイッチング—「感性的な語」・「語」によるコード・スイッチング—」 『現代社会文化研究』No.22
- 都恩珍 (2000) 「日本語□韓国語バイリンガルによるコード切り替え」 『日本学報』 Vol.45 No.1 19-32
- Nishimura, Miwa. (1997) *Japanese/English code-switching: syntax and pragmatics*, Peter Lang
- きん ちんしゆく/エフキュービク アカデミー
jzshujp@yahoo.co.jp